# 第１回篠山市総合教育会議　議事録

１．日　時

平成２９年７月２０日（木）　１０時００分～１２時２８分

２．場　所

市役所第２庁舎３階　２－３０１　３０２会議室

３．会議に出席した構成員

市　　長　　酒井　隆明

教育委員会

教 育 長　　前川　修哉

教育委員　　酒井　克典

教育委員　　中村　貴子

教育委員　　垣内　敬造

教育委員　　井上　友香

４．構成員以外の出席者

教 育 部 長　　芦田　茂

５．事務局出席者（教育委員会事務局）

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 次長 | 酒井 | 宏 |
| 教育総務課 | 課長 | 小林 | 康弘 |
| 学校教育課 | 課長 | 尾松 | 直樹 |
| こども未来課 | 課長 | 前中 | 斉 |
| 社会教育課 | 課長 | 樋口 | 裕昭 |
| 文 化 財 課 | 課長 | 村上 | 由樹 |
| 東部学校給食ｾﾝﾀｰ | 所長 | 齋藤 | 昭 |
| 西部学校給食ｾﾝﾀｰ | 所長 | 柏戸 | 隆弘 |
| 中央図書館 | 館長 | 赤井 | 毅彦 |
| たんば田園交響ﾎｰﾙ | 館長 | 小林 | 純一 |
| 地域ｺﾐｭﾆﾃｨ課 | 課長 | 谷掛 | 昭二 |
| 創造都市課 | 課長 | 竹見 | 聖司 |
| 農都環境課 | 課長 | 押田 | 健一 |
| 人権推進課 | 課長 | 中野 | 悟 |
| 教育総務課 | 係長 | 山本 | 圭太 |
| 教育総務課 | 主事 | 河野 | 元秀 |

６．次第及び協議・調整事項

別紙の通り

| | |
|---|---|
| 酒井市長 | １　開会 |
| 酒井市長 | ２　報告・協議事項<br>(1) 篠山市教育大綱の進捗状況について |
| 小林課長 | 《資料に基づき説明》 |
| 酒井市長 | まず、ふるさと教育の「１．ふるさと教育（１）篠山ほどよいところはない」について意見はあるか。 |
| 中村委員 | ふるさと教育について、昨年度の篠山市生活状況調査では小学生の 90%中学生の 85%以上が祭りや地域のボランティアに参加している。(2) の篠山の食をいかした学校給食では、篠山産の食材を 11 食品使用した献立を計画されており給食甲子園の一次予選を通過するのではないかと期待している。 |
| 井上委員 | 二点気になる点がある。<br>一点目が取組状況の中に幼稚園数 12 で味間認定こども園は入っていないことである。28 年度取組状況に関しては開園が年度途中で、正確な調査ができない為、取組状況の調査対象に入っていないという捉え方でよいのか。29 年度に関しても 28 年度との比較の為、取組状況に入っていないのか。<br>二点目はふるさと教育についてである。各学校園ともに地域との連携はされており、地域の素晴らしさを感じることは子供達もできていると思う。しかし、自分たちの住んでいるまちが「日本遺産」であることを理解できていないように思う。授業等でもっとＰＲしていく必要があるのではないか。 |
| 小林課長 | 一点目の味間認定こども園について、28 年度との比較であるので調査を実施していない。今後は調査対象に入れていく予定である。 |
| 酒井次長 | 二点目について、日本遺産に登録されたもの全てを子供達に理解させるには、難しいところがある。教材として取り入れるには、発達段階等に合わせたものを作っていく必要があり、現在調整中である。 |
| 井上委員 | 保護者として、子供に日本遺産を説明する際、教科書のようなものがあれば非常に助かる。 |
| 酒井市長 | 教科書では日本遺産は出ているのか。 |
| 前川教育長 | まだ出ていない。再来年が教科書の改訂である。その時に載る予定である。 |
| 酒井委員 | ふるさと教育を子供達がどのように受け止め、どのように学びに生かしているのかが重要である。ふるさと教育は子供達がふるさとについて自ら考えて、行動できるようになるまでを計画し実行していかなければならない。そのためには教育委員会、学校現場、地域住民の連携が必要である。 |

| | |
|---|---|
| | また、最近では、技術の発達で様々な情報を簡単に手に入れることが出来るようになり、実際に体験することが少なくなった。「習うより慣れろ」という言葉があるように、教える部分と実際に体験させて慣れさせる部分の両立も大切にして欲しい。 |
| 垣内委員 | 教育大綱の進捗状況について、各担当課が非常に頑張っていることが説明で良く分かった。非常に有難いと思う。しかし、大人が頑張って推し進めていても、肝心の子供に伝わっていないと意味がない。子供に伝わっているのか確認する事は難しいが、調べていく必要があるのではないか。<br>大人の頑張りが子供の好奇心や興味の邪魔にならないようなふるさと教育がなされればよいと思う。 |
| 前川教育長 | 小学生は日本遺産のまちに住んでいることの素晴らしさを発見する。中学生はその発見と外部評価を繋げる。という段階を踏むことが重要であると思っている。大きくなり知識を得るとき、小さな頃に経験したことがその知識と繋がることが本当の学びである。今は、子供達にその経験を積ませていくことを計画中である。 |
| 酒井市長 | 市内小学校は全て同じ教科書であるのか。 |
| 前川教育長 | 同じ教科書を使用している。 |
| 酒井市長 | 兵庫県内では同じ教科書使用しているのか。 |
| 前川教育長 | 同じではない。丹波市は同じ教科書使用している。社会科では丹波焼が載っている教科書があり、篠山市ではこれを使用している。教科書に載ると校外学習の対象地域となるため、校外学習で篠山を訪れる学校もある。 |
| 酒井市長 | 教科書に篠山が載っていることは素晴らしい。教科書に自分のまちが載っているのは、子供達にとってもとても良い影響があると思う。 |
| 前川教育長 | 教科書に載っているという外部評価が、まちを誇りに思う気持ちや心を育てる。 |
| 酒井委員 | これまで人々が守ってきた技術や町並み、文化を受け継いでいくことの素晴らしさ、重要性を理解できる教育が必要である。学校教育だけでは、意味がない。市全体で受け継いできた文化の素晴らしさを理解し、守っていく必要がある。 |
| 酒井市長 | 教科書は何年周期で変わるのか。 |
| 前川教育長 | 4 年である。篠山に関連した教科書を選択している。合わせて、篠山独自の副読本も作成している。 |
| 酒井市長 | 「1．ふるさと教育（2）篠山の食をいかした学校給食」について説明を求める。 |
| 柏戸所長 | 《資料に基づき説明》 |
| 酒井委員 | 食べ物の旬に合わせた献立に変えてほしい。篠山らしい給食を提供していくために地場野菜の活用が重要である。そのためには給食センターだけでなく、他部署との連携を図る必要がある。 |
| 酒井市長 | デカンショねぎは安定供給できるのか。 |

| | |
|---|---|
| 芦田部長 | ＪＡが力を入れてブランド化しようとしている。生産は安定している。 |
| 酒井市長 | 「１．ふるさと教育(3)自然とふれあう教育」について、説明を求める。 |
| 押田課長 | 《資料に基づき説明》 |
| 酒井市長 | 29 年度は何校にエコティーチャーを派遣するのか。 |
| 押田課長 | 13 校に派遣予定である。 |
| 酒井市長 | エコティーチャーとはどのような人なのか。 |
| 押田課長 | エコレンジャーと呼ばれる地球温暖化防止活動をしているグループに所属している人等である。 |
| 酒井市長 | どの教科での授業になるのか。 |
| 酒井次長 | 理科である。小学校 1，2 年生では生活科での授業として行っている。 |
| 酒井市長 | どんぐりＰＪの参加者はどの程度なのか。 |
| 押田課長 | 子供、親合わせて 30 名である。 |
| 酒井市長 | このような事業は参加者が非常に少ない印象を持っている。参加者が増えるような取り組みをしてほしい。 |
| 酒井委員 | 山のこと、生き物のこと、環境のことは関連していると思う。一つ一つをバラバラに行うのではなく、関連した取り組みを実施してほしい。その為には、様々な連携が必要になってくる。 |
| 酒井市長 | 教師向けに環境学習の講座を開催するとよいのではないか。子供達だけでなく、先生方も理解していない部分があると思う。 |
| 酒井委員 | 新学習指導要領で環境や防災が重要なこととして捉えられている。教師もそのことを理解し、環境や防災についても学んでほしい。また、市民も環境や防災の重要性を知ってもらうためにも取り組みをしていることをアピールしていかなければならない。 |
| 酒井市長 | 山のこと、生き物のこと、環境のことについて勉強する時間は授業中にあるのか。 |
| 前川教育長 | 小学校低学年では生活科の授業で行っており、それ以外の学年では総合的な学習の時間で行っている。幼稚園では園外保育の時間をそこに充てている。 |
| 酒井委員 | その時間を、計画的に学びに活かせているかが重要である。 |
| 前川教育長 | 次に改訂される学習指導要領では社会に開かれたカリキュラムをつくるように言われており、様々な立場の人の意見、発想、考えを授業に取り入れる流れになってきている。これから学校が必要になるのは、それをコーディネートする力である。地域の意見を取り入れても、それを調整できる力が学校になければ絵に描いた餅で終わってしまう恐れがある。 |
| 垣内委員 | 28 年度に比べ 29 年度はエコティーチャー派遣が格段に増えていると思う。これは、農都環境課でコーディネートしているからである。学校、教育委員会、関連部局で調整してその他の取り組みも行ってほしい。 |
| 酒井市長 | 各部局での連携が重要であることを皆さんの意見を聞いて改めて思った。 |

| | |
|---|---|
| 井上委員 | 学校が要望してくるのを待っていてはダメだと思う。市の方からどんどんアプローチをして、学校が「こんな取り組みがあるのか。活用しなければ。」となるようにＰＲしていってほしい。 |
| 前川教育長 | ヒーローを設定しているが、これはシンボリックなものではない。今は子供達の興味が地元に向くような形でヒーローを活用しているが、ヒーローを通して地域を知り、それが世界に通じていくような活用が本来であると思っている。段階を重ね成熟していけば、問題発見、解決という総合的な学習の役割を果たすものになると考えている。 |
| 酒井市長 | 自然とふれあうという観点でヒーローを設定されていると認識しているが、学校園によっては設定されているヒーローが趣旨と異なっているものがあると思う。 |
| 前川教育長 | 学校によっては無理にヒーローを設定しているかもしれない。先ほども申したが、ヒーローはシンボリックなものではない。本来の活用ができるヒーローが見つかるまでは空欄でも問題がないと私は思っている。その場合、きちんとその背景を教育委員会事務局が認識しておく必要がある。 |
| 酒井市長 | 「２．地域に開かれた学校（１）コミュニティ・スクール」についてはどのような状況なのか。 |
| 中村委員 | 開かれた学校づくりはできつつあると感じている。 |
| 酒井委員 | 素地はできている。地域がサポート的な役割で終わることなく、子供達がどのように育ってほしいという想いまで持って関わっていくことが重要である。 |
| 酒井市長 | コミュニティ・スクールによってどのような動きが起こっているのか。 |
| 前川教育長 | 篠山小学校では、学年ごとに地域の関わる方が決まっている。地域の方が当事者として学校現場に入っている。まだ成果と呼ばれるものはないが、地域を巻き込んだ動きは起こっている。 |
| 尾松課長 | 丹南中学校では、地域の方から自主的に「図書室の管理を手伝いたい」との申し入れがあり、毎週木曜日管理をお世話になっている。地域の方の教育に関わろうという想いが見える。 |
| 酒井市長 | 「２．地域に開かれた学校（２）高齢者とともに学ぶ」はどのような状況であるのか。 |
| 樋口課長 | 《資料に基づき説明》 |
| 中村委員 | 中学校と高齢者大学の連携は難しいのか。 |
| 樋口課長 | 中学校のカリキュラムとの兼ね合いで現時点では実施に至ってないが、今後うまく連携できればと考えている。 |
| 井上委員 | 高齢者大学通学者が中学校の授業を中学生と一緒に受講することを提案する。中学生にとって先生でない大人が教室にいることは良い影響があると思う。高齢者の生きがいにもつながるのではないか。 |
| 中村委員 | 授業が厳しいのであれば、給食等授業外のところだけでも関わってほし |

| | |
|---|---|
| | い。 |
| 樋口課長 | 給食を囲んでの交流会を今年度計画している。今後は、一般教養講座で落語を子供と一緒に学ぶ講座や、趣味講座でフラダンスを楽しむ講座が計画されている。 |
| 前川教育長 | 「学校はまちの教室」として国が方針を出している。市民が学校に関わることが重要となっている時代であるので、福祉とも連携し高齢者が学校で教わる仕組みも整えていければよい。篠山独自の子育てのありようが実現できればと考えている。 |
| 垣内委員 | 中学生が高齢者大学を参観し、高齢者が中学校を授業参観するという授業参観の交換はどうだろうか。互いに違った価値観に触れることが出来良い影響があると思う。また、授業を行う教師や講師にとってもそこまでの負担もないと思う。 |
| 前川教育長 | そうなると教師への教育も必要である。教育委員会として、地域の方が授業に入ることへの対応力など、教師が新たに必要とされる力を身に付けさせていかなければならない。 |
| 酒井市長 | 最近の教師は業務が多く負担が大きすぎる。必要でない事務的な業務をしているのではないか。 |
| 前川教育長 | 確かに多くの業務を精査していく時期に来ている。 |
| 酒井市長 | コミュニティ・スクールで教師の負担を減らすことはできないのか。地域住民が学校の運営に入り、教師の負担を減らすことができればよいと思う。 |
| 前川教育長 | コミュニティ・スクールの理想はまさしくそれである。しかし、以前そのような取り組みに対して、世間から教育の放棄であると非難が出たことがあり、現在のように教師が業務を溜め込む形になっていった。 |
| 酒井委員 | 現段階では難しいが段階的でよいので、学校の問題は地域の問題として、地域全体で解決に取り組む仕組みを整えて欲しい。 |
| 酒井市長 | 夏休みは教師も休んでリフレッシュすればよい。 |
| 前川教育長 | 補習日として生徒が登校する日もあれば、夏休みであるからできる研修もある。さらに夏休みも勤務日となっており全ては休めない。 |
| 酒井委員 | 教師の年休取得状況はどのようなものか。 |
| 尾松課長 | 最低 10 日は計画的に取得するように伝えている。 |
| 酒井市長 | 「３．学力の確立と向上（１）読み、書き、計算、あのねちゃん」のはどのような状況か。 |
| 井上委員 | 読書時間が減っている。朝の読書時間を減らして、小テストを実施する学校もあると聞いており少し残念に思う。 |
| 前川教育長 | 家庭での読書などにより相対的な読書時間は増えている。これは、子供達が読書に興味を持ち始めていることを表していると思う。 |
| 井上委員 | 学力調査から学力が伸びているのが分かる。これは小さな頃からの本の読み聞かせが関係していると思う。引き続きお願いしたい。 |

| | |
|---|---|
| 酒井次長 | 算数や国語のスキルタイムを取り入れたので、朝の読書時間が少なくなったが、全時間がなくなった訳ではない。 |
| 酒井市長 | 学力は上がっているのか。 |
| 前川教育長 | 上がっている。以前は勉強ができる子とできない子の二極化が激しかったが、今はその差が小さくなっている。平均的に学力が上がっている。 |
| 酒井委員 | 勉強ができない子が全くいなくなった訳ではないが、学校は非常に頑張って取り組みをしている。家庭環境が関係してくることもあるので学校だけでは解決できない部分もあるが、学校はきめ細かく対応しており、非常に頑張っている。 |
| 酒井市長 | 「３．学力の確立と向上（２）市内３高等学校との連携」について、貸与人数、貸与金額が少なすぎるのではないか。 |
| 酒井委員 | 貸与にすれば、卒業後相当な金額を返還する義務を背負う。給付にして頑張る子供達を支援すればよい。 |
| 小林課長 | 給付については今年度検討中である。 |
| 芦田部長 | 地域を担う子供達を支援したい想いもある。そのあたりも含めて検討している。 |
| 酒井市長 | 鳳鳴高校ＰＴＡ会長として、市との連携は感じるか。 |
| 竹見課長 | 鳳鳴高校ＰＴＡ会長としては、市と高校の連携は少ないように感じるが、デカンショバンド等の地域に根差した活動を生徒たちは実施している。 |
| 酒井委員 | 市内中学生が市内高校に進学し、地元を盛り上げてもらうことが良いと思う。その為の学校説明会やその他取り組みをしてもらっている。 |
| 尾松課長 | 市外高校へ進学する割合はそこまで高くない。 |
| 中村委員 | 様々な取り組みをしていただいたおかげで、市内高校に進学する生徒が今年度は増えたと思う。 |
| 井上委員 | 市のホームページから市内高校のホームページに繋がるリンクを設置してほしい。市外の人が市内に引っ越しを検討されるとき参考になると思う。 |
| 小林課長 | 早急に対応する。 |
| 酒井市長 | それでは残り「４．スポーツに親しむ」「５．篠山ならではの文化を育む」「６．あいさつと生活習慣」について意見等はあるか。 |
| 井上委員 | 篠山市ではホッケーのみに力を入れているのか。 |
| 酒井市長 | ホッケーのみではないが、篠山市ではホッケーを重点種目として取り組んでいる。 |
| 前川教育長 | 市内各中学校の部活動競技指導者を対象にスポーツの研修会を実施する。篠山のスポーツ文化を構築しなければならない。 |
| 酒井市長 | 教育大綱の推進については、今日のことをふまえて、引き続き推進していただきたいと思う。次回はいつ頃の予定か。 |
| 小林課長 | 10 月から 11 月頃に第 2 回開催予定している。 |
| 酒井市長 | それでは平成２９年度第１回の総合教育会議を終了する。 |